

スマートシティ

smart city

デジタルの力で さまざまな地域課題を解決し
人中心の 持続可能で便利な社会を実現する！

いま、私たちは、「豊かさ」の代償として、人口減少による地域経済の縮小、少子高齢化とそれに伴う労働力の不足、医療・介護需要の質的变化、激甚化する自然災害への備え、都市化・観光地化による渋滞問題、多様化する生活様式への対応など、さまざまな地域課題を抱えています。豊かさを我慢することなく、これらの地域課題を解決するために「行政」「医療・健康」「教育」「産業」「観光」などのさまざまな分野で収集されたデータを分析し、都市運営の最適化や新たなサービスやビジネスを創出して地域幸福度(Well-being)の向上を図っていく街、これがスマートシティです。

令和3年度に、行政や民間事業者が持つ各種データやサービスをつなぐデータ連携基盤と、それらサービスを市民の皆さんに提供する窓口となる「しもまちプラス」を構築しました。これにより、異なる複数のシステムやサービス間で蓄積された異なる形式のデータを効率的に収集・変換・管理してやり取りを行うための仕組みが整いました。

今後、さらにいろいろなサービスを実装し、地域幸福度を向上させていきます。また、地域幸福度(Well-Being)指標を測定し、必要な分野やサービスの内容などを改善していきます。

松永 州央さん

下関市スマートシティ推進協議会アーキテクト
株式会社フォー・クオリア 代表取締役
山口県宇部市出身

しもまち
プラス



しもまち
プラス
使い方



小・中学校、高等学校では、児童・生徒一人ひとりにタブレット端末が配備されています。鉛筆やノートと同じように学習の道具として使用する目的はもちろん、子どもたちの学習の習熟度をデータとして見える化し、授業の進め方や個別指導、本人の予習・復習に役立てることができ、学習のつまづきを早期に発見し、一人ひとりに合った学習支援などを行っています。

また、今後の取り組みとして、子どもたちの健康状態や心の状態をデータ化し、抱えているトラブルの解決に向けた具体的な働き掛けや学校不応の早期発見などに役立てることを予定しており、現在、一部の小・中学校で実証に取り組んでいます。



01
smart city
教育

これまで児童一人ひとりに目を行き届かせ、授業の理解度や健康状態などの把握をしてきましたが、それらの情報の集約に時間がかかることが課題でした。デジタルの力で、瞬時にデータをつかむことができると同時に、教員間ですぐに共有できるため、教員の負担軽減が図られ、授業改善等、本来業務に注力できるようになりました。また、個別最適な学びが可能になり、学校教育は、「教える」から「学ぶ力を育む」に変わってきています。



豊浦小学校
西田 智行 教務主任



小月タクシー
植田 秋彦さん

お客様が妊婦さんということで、助産師による専門研修を受けた認定ドライバーが対応し、運転には細心の注意を払っています。事前登録することで、AIがスムーズに配車し、情報端末に経路等が表示されますので道案内などは不要です。24時間365日対応しますので安心してください。タクシーには、バスタオルや防水シートなども常備しています。

02
smart city

交通 (しもまちBABYタクシー)

デジタル技術を活用し、移動手段と目的地の店舗などを連携させ、スマホなどでの一体的な検索や支払いを可能とすることで、利便で持続的な交通サービスをつくっていくことを目指しています。

まずは、デジタルに慣れ親しんでいる子育て世代をターゲットとしたサービスとして、令和5年度から子育て支援タクシーアプリ「しもまちBABYタクシー(愛称「ベビタク」)」を実施しています。母子手帳を交付された妊産婦が対象で、アプリの登録をすると、スマホなどから簡単にタクシーの手配ができ、自宅と病院をスムーズに移動できます。

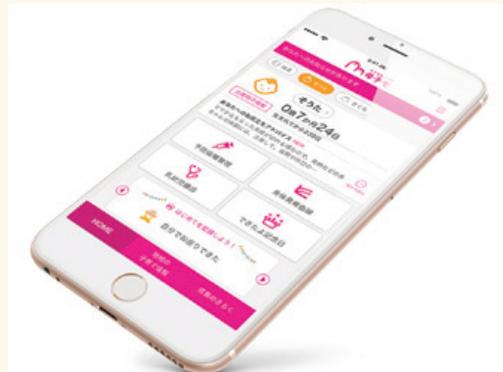
04
smart city

病児保育 (あずかるこちゃん)

子どもが病気のときに、保護者が仕事や冠婚葬祭等の理由で、家庭で保育ができない場合に、一時的に預かる病児保育のサービスの予約等をスマホなどから受け付けることができます。

電話で問い合わせなければ分からない施設の空き状況がスマホで確認でき、そのままスマホから予約申し込みができるなど、緊急時にスムーズな手続きが可能です。24時

間受け付けが可能で、保護者は時間を気にせず子どもの情報を伝えることができます。子どもが病気のとき、病児保育という選択肢があることで、子どもは最適な保育看護を受けられ、保護者は安心して仕事に集中でき、企業は生産性を向上させることができます。施設のスタッフも煩雑な手続き作業から解放され、保育とケアに集中できるというメリットがあります。

03
smart city

母子保健 (母子手帳アプリ「ふくふく母子モ」)

令和5年度から妊娠・出産・子育てまでを切れ目なくサポートする母子手帳アプリ「ふくふく母子モ」を提供しています。スマホなどで、妊産婦と子どもの健康データの記録・管理や予防接種のスケジュール管理、育児情報の入手などができます。



妊娠中にパンフレットをもらっていたので、出産直後にアプリをダウンロードしました。育児学級の予約や市からのお知らせの確認がスマホのできるのがいいですね。予防接種のスケジュール管理や定期健診の結果がグラフで確認できるので、これから活用していきたいと思っています。

スマホは、いつも手元にあるので、育児の記録がとても便利です。スマホで写真を撮って、日記をつけて、我が子の日々の成長を記録しておきたいと思います。



渡部 千春さん・穂高ちゃん

05
smart city

産業 (スマート農業、スマート水産業)



農業では、センサーを活用した生産管理やドローンによる農薬散布などの取り組みを通じて、農作物の品質向上や労働時間の短縮、農作業の負担軽減、栽培技術の早期習得などを実現しています。

水産業では、魚種や漁獲量、漁船の運航状況、水産物の需要動向など、さまざまな情報を漁業者と市場とがリアルタイムで共有できるアプリを開発することにより、操業など業務の効率化や水産資源の保護といった効果が見込まれています。

地域おこし協力隊として昨年、下関に赴任しました。エンジニアとしての経験を生かし、農業従事者の作業負担軽減につながるシステムや農機具の開発を行っています。赤外線カメラと水鉄砲で鹿などを寄せ付けないようにする仕組みや収穫物を搬送するロボットなどを作りました。超音波で水面までの距離を計測して水田の水位の管理をする仕組みや水田に入らなくても除草ができるロボットの開発などを任期中に実装したいと思っています。



地域おこし協力隊
六車 浩二さん

06
smart city

ヘルスケア (かかりつけ薬局による予防医療)



顧客の訴える症状と、薬の購入履歴データから、予測される病気があることが分かっています。医薬品等の商品データと顧客の健康情報・購買履歴情報などを組み合わせ、顧客への正しいカウンセリングが行えるようデジタル化の取り組みが進んでいます。このことで、重篤な病気を発症するリスクの高い潜在患者を

見することを目指しています。

将来的には、アプリを開発し、健診結果、服用薬の履歴、医療機関の受診データ等を組み合わせ、早期発見・医療費削減が期待されます。



ドラッグストアはシフト制なので、お客様が買い物に来られた際に対応する店員が、お一人お一人の健康状態をすべて把握して対応することが困難でした。今年の3月にシステムを導入し、デジタルを活用することで、店員間でお客様の健康状態や購入履歴などを共有し、お客様がいつ買い物に来られても適切な対応ができるようになりました。

特定の薬を頻繁に購入されるお客様の病気を予見し、早期発見につながって、お客様から感謝のお言葉を頂いたこともあります。「自分のことをよく知ってもらえて安心」と喜んでいただいています。



サンキュードラッグ
藤井 孝太郎さん

07

smart city

デジタル・デバインド対策とデジタル人材の育成

デジタル・デバインドとは、インターネットなどの情報通信技術を使える人と使えない人との間に生じる格差を表す言葉で、主に「情報格差」という意味で使われます。誰一人取り残されないデジタル社会を実現し、地域幸福度(Well-Being)を向上させるため、デジタル・デバインド対策とデジタル人材の育成を進めています。



Minecraftカップ、シニアeスポーツ体験会



プログラミング学習や教育現場で使われている「教育版マイクラフト」の体験会の開催や作品コンテスト「Minecraftカップ」への参加を通じて、子どもたちにデジタルモノづくりに親しんでもらっています。

また、ご年配の方に向けては、操作が簡単な対戦型のテレビゲームで、デジタルに対する苦手意識を取り除き、興味関心を持つてもらえるよう、シニアeスポーツ体験会(リズムゲーム「太鼓の達人」)を開催します。誰かと一緒にプレイすることで社会とのつながりを持ち、幅広い世代に親しまれているゲームなので子どもや孫世代とも一緒に楽しむことができます。

デジタル・コンテスト



地域の課題解決に、下関の将来を担う若者の発想力・実行力を生かすため、イノベーション創出型コンテストを開催しています。

このコンテストは、毎年、異なるテーマ(観光や「介護」など)を設定。勉強会や現場へのヒアリングから課題を洗い出し、デジタル・デザインを用いてアイデアを検討してもらい、専門家によるフィードバックでブラッシュアップしながら具現化・実装を行うものです。

イベントを通じて、社会問題への理解を深め、デジタル・デザインの可能性を学びながら、デジタル・リテラシー(デジタルを活用する能力)を高めてもらうことを期待しています。

スマホ教室

スマホの使用に不安のある方に、スマホのいろいろな使い方を説明するスマホ教室を開催しています。

デジタルを活用した便利なサービスも、スマホやパソコンが使えなければ、市民の皆さんに便利だと感じてもらえません。誰一人取り残さない、人に優しいスマートシティの実現を目指しています。



松田 圭子さん

以前、パソコン教室に参加したことがありますが、1人の先生に多くの生徒がいる集合形式。理解の度合いは人それぞれで、分かっているふりをして、結局、分からないままでした。今回、1対1で教えてくれるスマホ教室があることを知り、すぐに申し込みました。丁寧に教えていただき、すごく分かりやすかったです。Instagramを使えるようになって世界を広げたいです。電車やバスの乗り換え案内アプリは本当に便利です。

スマホミニ講座!



スマホは、電話やメールができるほか、「アプリ」を追加(インストール)することで、いろいろなことができるようになります。無料で使えるアプリも多く、目的に適したアプリを追加することで、より便利に活用できます。やってみたいこと、見つけてみませんか?

活用術1

記念写真だけじゃない!~カメラ機能のこんな使い方~

スマホで撮影した写真は、繰り返し見ることができるので、メモ帳としても活用できます。また、撮影した写真を拡大して表示することで、ルupa代わりに使うことも可能!



紙とペンがなくても、メモ帳に!
拡大表示で読みやすくなります。

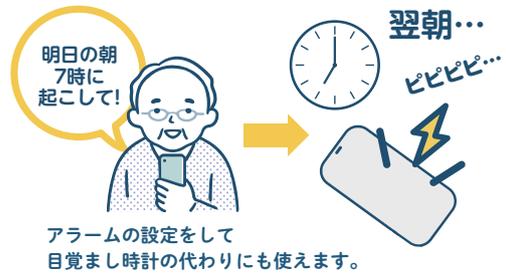


画面側のカメラを使って、
外出先での身だしなみチェック!

活用術2

音声入力でカンタン! ~手のひらに秘書!~

音声入力の機能を使えば、カンタンにさまざまな操作ができます。スマホに話し掛けるだけで、インターネット検索のほか、買い物中の割引の計算や、目覚ましアラームの設定など、まるで自分専属の秘書のように活用できます。



活用術3

スマホに通訳を してもらおう!



無料多言語音声アプリ「Voice Tra(ボイストラ)」
スマホ一つで、日本語での会話が不自由な方
とのコミュニケーションがもてます。(総務省)



活用術4

いろいろなことを 調べてみよう!



検索結果で、「昭和99年」と出てきます。

※スマホの機種によって、機能や操作が異なる場合があります

特殊詐欺等にご注意を!!

QRコードを使ったことのない方は、チャレンジしてみましょう!

山口県
ホームページ
防犯情報



やまぐち・
くらし安心
ネット通信



国民生活
センター



便利なスマホ…ですが、子どもや高齢者が被害となるトラブルが増えているので、注意が必要です。

警察や国民生活センター等のホームページにトラブルの事例等がたくさん掲載されています。

これらの情報は、スマホやパソコンがあれば簡単に入手できます。

トラブルに遭わないために、事例や手口などの情報を集めておくことが有効です。

たくさんの事例の中から一部を紹介します。

【事例①】

実在する宅配業者名でSMS(電話番号で送信される短文メール)が届いた。ちょうど荷物が届く予定があったので、SMSに書かれていたURL(ホームページのアドレス)をクリックして、記載されていた指示通りに、IDやパスワード等を入力した。しかし、その後10万円を不正利用されていることが分かった。(60歳代)



【事例②】

スマホに「ETCカードを更新するように」とのメールが頻繁に届くようになった。所有しているクレジットカード会社発行のETCカードの手続きが必要なのかと思い、URLを開いてメールアドレスやパスワード、クレジットカード番号を入力した。その後、カード会社に連絡すると覚えのない決済があり、2万円が使用されていた。(70歳代)



おかしいな…と思ったら 消費生活センター(☎231-1270)へ。



トラブルに遭わないために

デジタル化が進んでいますが、ご年配の方は「よく分からないから不安」と、せっかくの文明の利器を活用していない方が多くいらっしゃいます。日ごろから情報を把握し、世の中の動きに敏感になっておくことは大切です。下関市消費者の会では、トラブルを未然に防ぐための啓発活動を行っています。

SNSやネットなどでトラブルに巻き込まれないためには、いくつかのポイントを押さえておくことです。①顔の見えない相手を簡単に信用しない。②「お得な情報」には飛びつかない。③個人情報には安易に漏らさない。おかしいな…と思ったら、ご家族や消費生活センターなどに、すぐに相談してください。



下関市消費者の会
藤本 ひろみさん

スマートシティは、地域幸福度を向上させることが目的です。誰一人取り残さず、皆さんが便利な生活を送れるよう、今後も新しいデジタルのサービスを提供していきます。

企画課
スマートシティ推進室
(☎231-1911)